

10月8日(日) 16:30~18:30 第1会場(東京国際フォーラム A棟 ホールA)

座長：東京都薬剤師会 生涯学習委員会 後藤 恵子

SL4

## やさしさを伝えるケア技術・ユマニチュード

イヴ・ジネスト

ジネスト・マレスコティ研究所 所長



従来、医療・看護はご本人が「治療の意味が理解でき、検査や治療に協力してくれる」ことを前提に行われてきました。しかし、現代の日本ではその前提条件が必ずしも得られるわけではない事態が増えてきています。高齢化が進み、提供される医療やケアが自分のためと理解できずに激しく抵抗する人々に、遭遇することはもはや珍しくなくなりました。これにより質の高い医療や介護の実現が困難になるばかりでなく、ケアを行う人が疲弊して職を辞すなど、看護・介護人材の離職にも直結しています。日常的に介助・介護が必要となる脆弱な状況にある方々に、単に「して差し上げる」のではない、その方が必要とするケアのレベルに合わせた、適切なケアや治療をどうやって提供することができるか、が医療や介護の重要な課題となってきました。

ケア困難となる状態は医療の提供はもとより、患者さんの生活の質を保つことができず、同時に本人だけでなくケア提供者にも心理的ストレスが生じます。とくに認知症の行動・心理症状の増悪は周囲環境からのストレスが契機となることから、ストレスを感じさせないケアの重要性が認識されています。

ユマニチュードはフランスで生まれた40年の実績をもつ知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づくケア技法です。「ケアをする人とは何か」「人とは何か」という思索を常にめぐらす哲学と、「あなたは大切な存在です」「わたしはあなたと一緒にここにあります」というメッセージをケアを受ける人が理解できる形で届け、質の高いケアを実践するための具体的な技術で構成されます。

その効果の一つとして認知症の行動心理症状の軽減があります。認知症の行動心理症状の軽減に伴って、向精神薬の処方量を減らすことができるために、近年新たな問題として注目されているポリファーマシーの解決策のひとつとして、フランスをはじめ欧州各国で注目されています。日本では認知症の行動心理症状やケア専門職や自宅介護を行っている家族の負担軽減についての臨床研究結果も報告されています。

医療における薬剤師のみなさまの役割が増大する時代に、ユマニチュードの哲学と技術をぜひお役立ていただければと思います。

.....

### 略歴

イヴ・ジネスト(Yves Gineste)

ジネスト・マレスコティ研究所所長。京都大学客員教授。

トゥールーズ大学卒業。体育学教育の経験を踏まえ、1979年にフランス国民教育・高等教育研究省から病院職員教育担当者として派遣され、病院職員の腰痛対策に取り組んだことを契機に、看護・介護の分野に関わることとなった。知覚・感情・言語による包括的ケア技法：ユマニチュードを考案し、現在欧州・アジア・米国各地での教育活動を行なっている